

## 次世代リーダーの育成 連合大学院と「働く文化ネット」

社会連帯研究交流センター運営委員長西原浩一郎氏  
NPO 法人「働く文化ネット」代表理事小栗啓豊氏

「連帯社会インスティテュート」という名前をお聞きになったことがあるだろうか。

これは2015年4月に正規の大学院として法政大学に新設されたもので、通称「連合大学院」ともいわれる。法政大学、連合、日本労働文化財団が連携、労働組合、協同組合、NGO/NPOという社会公益を担う組織のリーダーを育成する社会人向け修士課程のプログラム（夜間）である。



少し古い世代は、昭和20年代に中央労働学園というやや似た学院があったことを御存知の方がおられるかもしれない。佐々木孝男、孫田良平、小島健司、千葉利雄各氏らを輩出したことで知られる。

その兵站線を担う社会連帯研究交流センター運営委員長の西原浩一郎さん、続いてNPO法人「働く文化ネット」（2013年6月発足）代表理事の小栗啓豊さんからそれぞれ取り組み状況を聞いた。

西原さんは、「連帯社会」の実現に向けて、新しい地域社会や国づくりのための広い教養と国際的視野、構想力と実行力を持つ「新しい公共」を担う次世代のリーダーの養成が求められるとして、「ともに助け合う連帯社会の構築を日指す。労働運動をはじめそれらの組織を横断的に捉えることのできる幅広い視野をもった人物を育てたい」と力説された。

### ▽働く文化の振興

小栗さんは「働く文化の振興を求めて」をテーマに、同ネットを紹介。



ワークルール啓発、労働運動歴史展示、労働映画上映・保存の3事業を行い、殊に世の中で「ブラック企業」が問題となる中、勤労者や経営人事に携わる方々にとって必須の知識である権利・義務関係に関わる「ワークルール」検定を実施、注目されている。この検定には、スタートした2013年から16年度まで、初級で累計4100人が参加し、5割強が合格。14年からの中級は541人が受験、半数弱が合格ということであった。

また、この日は「労働映画」活動の一端として、記録映画『炭坑』を試写し、同ネットの鈴木不二一さんに解説していただいた。ぜひたくで充実した一連のヒアリングとなった。（井上定彦）